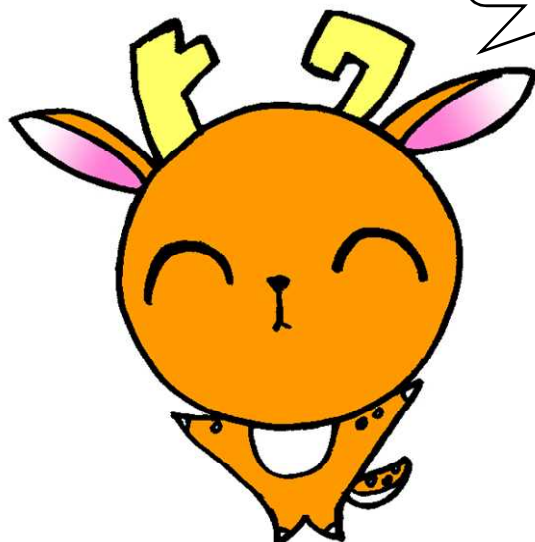


チーム学校特別支援教育力UP マニュアル

管理職向け



令和7年3月
香川県教育委員会事務局
特 別 支 援 教 育 課

～チーム学校特別支援教育力 UP マニュアル作成にあたって～

このマニュアルは、「管理職のリーダーシップによる全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事業」の研究成果をまとめた資料集です。

令和5年度の事業実践において、

- ①児童生徒の困難さ認知
- ②校内委員会の運営の在り方
- ③個別の指導計画の作成と活用
- ④学校経営マネジメントによる校内組織体制の強化

の4観点を中心に検証した、研修システムや内容、組織体制の強化に関して有効であった資料等を整理しました。

資料等は、「チーム学校特別支援教育力 UP マニュアル」として、

- 【資料1】 特別支援教育マスター指標連動型研修プログラム
(令和7年3月版)
- 【資料2】 特別支援教育マスター指標（管理職：校長）自己確認シート
特別支援教育マスター指標（管理職：副校長・教頭）
自己確認シート
- 【資料3】 校内委員会パック

を掲載しています。

学校経営方針や学校教育計画における目標や評価項目での特別支援教育の位置付け、校内委員会の見直しによる校内組織体制の強化等の参考資料として活用していただければと思います。

チーム学校特別支援教育力UP マニュアル



【資料1】

特別支援教育マスター指標連動型研修プログラム（令和7年3月版）・・・P1～P3

【資料2】

特別支援教育マスター指標（管理職：校長）自己確認シート・・・・・・P4～P6

特別支援教育マスター指標（管理職：副校長・教頭）自己確認シート・・・P7～P8

【参考】

特別支援教育マスター指標（管理職：校長・副校長・教頭）・・・・・・P9

【資料3】

校内委員会パック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11

・校内委員会概要図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12、P13

・機能的な校内委員会運営シート・・・・・・・・・・・・・・・・P14、P15

・みんなで支えたい児童生徒のための校内把握シート
～通常の学級：チェックリスト～・・・・・・・・・・・・・・・・P16、P17

・特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリスト・・・・・・P18、P19

・校内委員会進行マニュアル（司会台本）・・・・・・・・・・P20、P21

・個別の指導計画（通常の学級用：参考様式1-1、1-2）・・・・・・P23～P25
（記入例1-1、1-2）・・・・・・・・・・・・P26、P27

・個別の指導計画（通常の学級用：参考様式2、記入例2）・・・・・・P28、P29

・校内委員会報告書（参考様式・記入例）・・・・・・・・・・P30～P32

・つなげよう！つながろう！特別支援教育ネットワークマップ・・・・・・P33、P34

・つなげよう！つながろう！特別支援教育ネットワークマップ
（自校の相談）・・・・・・P35

資料 1

特別支援教育マスター指標連動型研修プログラム (令和7年3月版)

特別支援教育マスター指標連動型研修プログラム「かがわ特別支援教育研修パッケージ」は、本県の教員等人材育成指標を基にした研修プログラムとして、教員一人一人が教職経験のキャリアに応じて主体的に専門性を高めるために活用できるように開発したプログラムです。

校内外での特別支援教育に関する各種研修、研鑽のための自己研修等、その時々が必要に応じてコンテンツやリーフレットをピックアップして活用することもできます。

特別支援教育マスター指標 連動型 研修プログラム 「かがわ特別支援教育研修パッケージ」

① 教諭・養護教諭・栄養教諭

【令和7年3月】

教諭・養護教諭・栄養教諭の「特別支援教育マスター指標」

キャリアステージ 観点	基礎期 基本的な知識・技能習得 (目安：1～6年目)	発展期 自己研鑽意欲・専門性向上 (目安：7～20年目)	深化期 多様で豊富な経験の発信 (目安：21年目)
子供理解力 (観察やアセスメントに基づく実態把握)	障害による困難さについて、先輩教員の助言等を参考に理解する。	障害による困難さについて、多方面からの情報を収集しながら総合的に理解する。	障害による困難さについて、確かな理解力と経験を生かし、他の教員に適切に助言できる。
学習指導力 (指導目標、内容、方法の設定)	支援の在り方について基本的な知識や技能を身に付ける。	専門的な知識や技能を高めながら、集団の中での個に応じた支援ができる。	豊富な経験を生かしながら、適切な支援の在り方を他の教員に提案できる。
参画・協働力 (関係機関と連携しながら行動する力)	保護者や関係機関との連携の大切さを理解し、管理職や先輩教員と相談しながら連携を進める。	保護者や関係機関と積極的に連携するとともに、協働的な支援チームの一員としての役割を果たす。	保護者や関係機関と共に情報共有を図りながら、協働体制づくりにおいてリーダーシップを発揮する。

研修プログラム

□国立特別支援教育総合研究所 インターネットによる講義配信 「NISE 学びラボ」 ・講義スタイルで、体系的に学べるサイト 	○合理的配慮と基礎的環境整備 ○特別支援教育における教材教具の活用 ○通常の学級における個々の子供への指導や支援 ○LDのある子どもの理解と対応 ○ADHDのある子どもへの理解と対応 ○通常学級における自閉症スペクトラム障害(ASD)のある児童生徒の指導の対応 ○自立活動の指導 - 指導計画の作成 -	○インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(2) - 特別支援教育の理念と基本的な考え方 - ○インクルーシブ教育における交流及び共同学習 ○個別的教育支援計画と個別の指導計画②作成と活用 ○特別支援教育におけるカウンセリング法 ○障害のある児童生徒のキャリア教育 ○知的障害の理解と教育的対応の基本 ○知的障害教育における自立活動の基本	○インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(3) - 学習指導要領と教育課程 - ○発達障害のある子どもの通常の学級における支援 ○特別支援学校の地域におけるセンター的機能① - センター的機能の考え方と内容 - ○福祉・医療との連携 ○情緒障害教育概論 ○LD・ADHD・高機能自閉症等教育概論 ○自閉症のある児童生徒の自立活動の指導
□県教育センターHP  ・演習スタイルで、体験的に学べるサイト	□オンライン研修サイト 「個別の指導計画作成」演習プログラム ①算数編 ②校外学習事前学習編	NEW! □オンライン研修サイト 「特別支援教育支援員が活躍する校内支援体制づくり」演習プログラム	
□国立特別支援教育総合研究所 ・(NISE) 発行 特別支援教育リーフ 	□NISE Vol. 4 多様性の理解につながる「障害理解」 □NISE Vol. 5 このように考えよう、「合理的配慮」 □NISE Vol. 9 感情をコントロールすることが苦手な子どもの理解と支援	□NISE Vol. 2 障害のある子供も共に楽しむ体育の授業 □NISE Vol. 3 学習や生活を豊かにする ICT □NISE Vol. 7 みんなの思いをことばにしよう！つなげよう！ - 個別的教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用 -	□NISE Vol. 6 活用してみよう、「センター的機能」 □NISE Vol. 11 「交流及び共同学習」の授業づくり □NISE Vol. 14 キャリア・パスポートの作成と活用
主たる研修	初任者研修・教職1年経験者研修	中堅教諭等資質向上研修Ⅰ・Ⅱ	教職20年経験者研修

② 管理職（校長・副校長・教頭）

校長・副校長・教頭の「特別支援教育マスター指標」

観点 キャリアステージ	副校長・教頭 キャリアの充実	校長 キャリアの完成
マネジメント力 (学校経営力、人材育成力)	学校経営計画の重点項目を具現化し、 <u>特別支援教育の視点を取り入れた校内研修を推進し</u> 、評価と改善に導く具体的な指導ができる。 障害による困難さについて、 <u>確かな理解力と豊富な経験を生かし</u> 、 <u>就学も含めた適切な指導</u> ができる。 各種教育施策や制度を正しく理解し、学校経営において活用する。	学校経営計画の重点項目に <u>特別支援教育の視点を明示し</u> 、 <u>特別支援教育力の向上を目指した実践的な校内研修や校内委員会を運営する</u> 。
連携推進力 (保護者、関係機関との連携を推進する行動力)	校内委員会の有機的な運営を推進し、 <u>できうる環境整備や合理的配慮を提案するとともに</u> 、相談窓口として保護者や関係機関との連携を一層推進する。	保護者や特別支援学校、福祉機関等との <u>つながり</u> を密にした連携体制を構築し、校内外の支援体制強化の責務を果たす。
子供理解力 (観察やアセスメントに基づく実態把握)	多面的かつ適切な実態の把握と検査結果等の活用で、障害による困難さと教育的ニーズを把握し、支援の方向性等を助言できる。 <u>個別の指導計画の作成状況を確認し</u> 、適宜妥当性を <u>評価</u> できる。	

研修プログラム

☐ 国立特別支援教育総合研究所 インターネットによる講義 配信 「NISE 学びラボ」 ・講義スタイルで、 体系的に学べるサイト 	○インクルーシブ教育システムにおける専門性と研修 ○特別支援学校の地域におけるセンター的機能② - センター機能が有効に発揮されるために - ○合理的配慮と基礎的環境整備 ○多様な学びの場（2）小・中学校等② ○「通級による指導」の成立とその意義 ○教育と福祉・医療等との連携 ○通常の学級における個々の子供への指導や支援 ○自閉症のある児童生徒の家族支援	○特別支援教育におけるカウンセリング法 ○個別の支援計画と個別の指導計画① 学習指導上の位置付けと役割 ○特別支援教育の視点を生かした学校経営 ○小学校・中学校管理職のための特別支援学級における教育課程編成 ○特別支援教育コーディネーター - 役割と活動を中心に - ○小・中学校に在籍する健康面への配慮が必要な児童・生徒の理解
☐ 県教育センターHP  ・演習スタイルで、 体験的に学べる サイト	☐ オンライン研修サイト 「校内委員会運営」演習プログラム	
☐ 国立特別支援教育総合研究所 ・(NISE) 発行 特別支援教育リーフ 国立教育政策研究所 ・(NIER) 発行 生徒指導リーフ 	☐ NISE Vol. 1 ～23 例 ☐ NISE Vol. 10 人前で話すことが苦手な子供の理解と支援 ☐ NISE Vol. 12 急な予定の変更に対応することが苦手な子供の理解と支援 ☐ NISE Vol. 22 知的障害特別支援学校における教育課程編成と授業づくり ☐ NIER Leaf. 3S 発達障害と生徒指導～自尊感情への配慮～ ☐ NIER Leaf. 14S 不登校の予防～発達障害の特性と不登校リスク～ ☐ NIER Leaf. 15S 「中1ギャップ」の真実～発達障害の特性等に応じた小中のつながり～	
☐ 主たる研修	☐ 新任副校長・教頭研修	☐ 新任校長研修

資料 2

特別支援教育マスター指標

（管理職：校長）

（管理職：副校長・教頭）

自己確認シート

管理職（校長）（副校長・教頭）の特別支援教育マスター指標の3観点を細分化し、自己確認項目として設定しました。

年間2回自己評価に活用できるシートで、管理職（校長）（副校長・教頭）が、学校運営の柱の一つとして特別支援教育を捉え、学校運営の充実を図るための自己確認シートです。

特別支援教育マスター指標(管理職:校長)自己確認シート

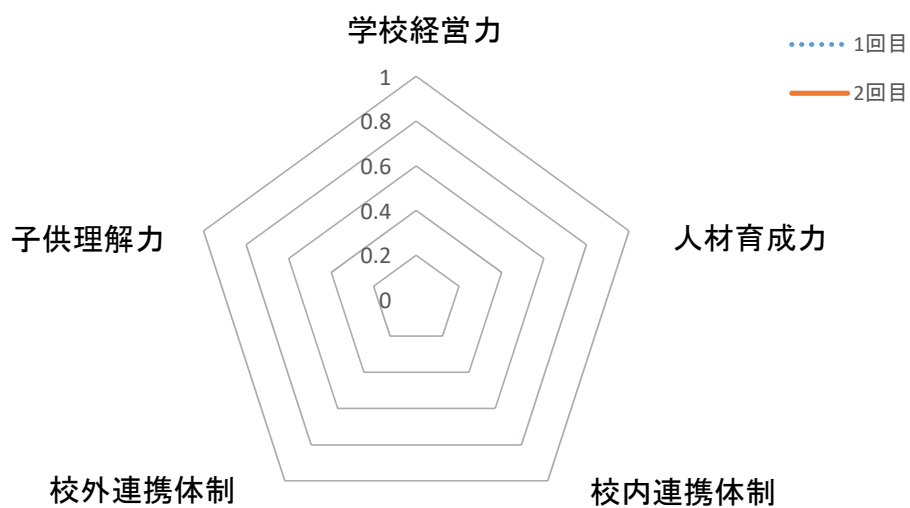
確認日(1回目)令和 年 月 日
(2回目)令和 年 月 日

番号	観点	自己確認項目	自己評価 1回目/2回目	
1	マネジメント力	学校経営方針や学校経営目標に特別支援教育に関する目標を設定する。		
2		特別支援教育に関する最新の教育施策等を理解し、取り入れる。		
3		特別支援学級や通級による指導の教育課程編成や就学等を正しく理解し、適切に運用する。		
4		適宜校内委員会を開催し、必要な支援や特別支援教育支援員の配置等について確認・検討する。		
5		「分かる」「できる」授業づくり、及び多様性を尊重した学級経営に学校全体で取り組む。		
6		校内研修で特別支援教育の内容を推進する。		
7		特別支援教育コーディネーター(以下、特Co.とする)の複数指名や授業時数を配慮する等、特Co.の職務が遂行しやすい体制を整える。		
8		特別支援教育に関わる資質向上に必要な研修を対話により奨励する。		
9		おおむね10年目までの教員が、特別支援教育に関する経験※ができるように配慮する。 ※(特別支援学級担任、通級による指導の担当、特Co.等)		
10		通常の学級担任をはじめとする全ての教員が障害特性等について理解できるよう啓発する。		
11	連携推進力	保護者や本人の願いを把握し、効果的な支援内容や方法を共有する。		
12		学校での支援や合理的配慮について保護者と話し合い、合意形成を図る。		
13		通常の学級における個別の指導計画等の作成を促進し、連携や引継ぎ資料として有効活用するとともに、適切に管理する。		
14		校内委員会等で協議した具体的な支援内容等について共有化を図り、その支援内容について評価し、改善する。		
15		学校だよりや講演会、入学周知会等を活用し、保護者に特別支援教育に関する理解の啓発をする。		
16		福祉機関や医療機関、地域の特別支援学校等とつながりを形成する。		
17		必要に応じて巡回相談や連携訪問、特別支援学校のセンター的機能等を活用する。		
18		地域の福祉機関を利用する制度や手続きを知り、関係職員に適切に情報提供する。		
19		関係機関とのケース会、サービス担当者会議に担当者が参加できるようにし、協議内容を共有する。		
20		幼・保・こ・小・中・高等学校間の連携体制を構築し、適宜連携できるようにする。		
21	子供理解力	児童生徒の強みや困難さの把握に努め、関係教職員と情報を共有する。(個別式知能検査・チェックシートの活用)		
22		目標・手立てや合理的配慮を明記した個別の指導計画等の作成状況を把握する。		
23		関係教職員とともに個別の指導計画等を定期的に評価し、指導する。		
24		実態を多面的に把握し、支援の方向性を助言する。		
25		具体的な指導支援の効果等を校内委員会や事例検討会で取り上げ、助言する。		

4…できている 3…ほぼできている 2…あまりできていない 1…できていない

※高知県教育委員会特別支援教育課「校内支援体制」自己診断入力シートを参考に香川県教育委員会特別支援教育課が「特別支援教育マスター指標(管理職)」に対応させて一部修正

観 点		1回目	2回目
マネジメント力	学校経営力	0	0
	人材育成力	0	0
連携推進力	校内連携体制	0	0
	校外連携体制	0	0
子供理解力		0	0
合計		0	0



【振り返り】
(1回目)

(2回目)

特別支援教育マスター指標(管理職:副校長・教頭)自己確認シート

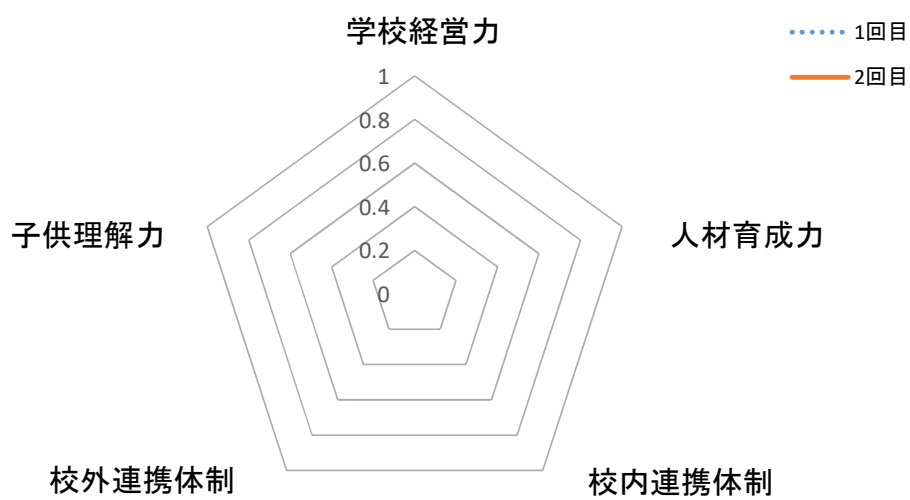
確認日(1回目)令和 年 月 日
(2回目)令和 年 月 日

番号	観点	自己確認項目	自己評価 1回目/2回目	
1	マネジメント力	学校経営目標の特別支援教育に関する項目の具体的取組について、校内の各分掌等に助言する。		
2		特別支援教育に関する最新の教育施策等を理解し、取り入れる。		
3		特別支援学級や通級による指導の教育課程編成や就学等を正しく理解し、学びの場の適切な運用に向けて環境整備等を推進する。		
4		就学の窓口として保護者や本人の願いを聞き取り、十分な実態把握のもと教育的ニーズに応じた学びの場について校内委員会等で検討する。		
5		「分かる」「できる」授業づくりや多様性を尊重した学級経営に学校全体で取り組み、適切な指導・助言を行う。		
6		現職教育主任や特別支援教育コーディネーター(以下「特Co.」という)とともに、特別支援教育に関わる資質向上に必要な研修を計画し、実施する。		
7		特Co.や担任、特別支援教育支援員やSC・SSW等の相談にのり、情報を共有しながら、有機的な校内支援体制を整える。		
8		必要に応じて特別支援教育の研修に職員の参加を促すとともに、研修に参加しやすいように業務の調整を図る。		
9		環境整備や合理的配慮をしている教員の支援について評価し、校内で情報共有を図る。		
10		通常の学級担任をはじめとする全ての教員が障害特性等について理解できるよう啓発する。		
11	連携推進力	特Co.や学級担任等とともに、学校での支援や合理的配慮について必要に応じて保護者と話し合う。		
12		通常の学級における個別の指導計画等の作成を促進し、引継ぎ資料として有効活用する。		
13		校内委員会等で協議した具体的な支援内容について評価し、できうる環境整備や合理的配慮について必要に応じて改善案を提案する。		
14		校内委員会の参加者について調整するとともに、特Co.へ必要に応じて事前の準備等について助言する。		
15		講演会等を実施し、保護者の特別支援教育に関する理解が深まるように啓発する。		
16		福祉機関や医療機関、地域の特別支援学校等との連携の窓口としての役割を担い推進する。		
17		必要に応じて巡回相談や連携訪問、特別支援学校のセンター的機能等を活用する。		
18		地域の福祉機関や利用する手続きを知り、関係職員に適切に情報提供する。		
19		関係機関とのケース会、サービス担当者会議等の参加者について特Co.と調整し、関係教職員に協議内容を共有する。		
20		幼・保・こ・小・中・高等学校間での連携を適切に行い、良好な関係の構築を図る。		
21	子供理解力	児童生徒の強みや困難さの把握に努め、関係教職員とともに指導に生かす。(個別式知能検査・チェックシートの活用)		
22		目標・手立てや合理的配慮を明記した個別の指導計画等の作成状況を把握し、活用を促進する。		
23		関係教職員とともに、個別の指導計画等を定期的に評価し、指導する。		
24		実態を多面的に把握し、支援の方向性を見通した具体的な助言をする。		
25		校内委員会や事例検討会を開催し、具体的な指導・支援方法等について助言する。		

4…できている 3…ほぼできている 2…あまりできていない 1…できていない

※高知県教育委員会特別支援教育課「校内支援体制」自己診断入力シートを参考に香川県教育委員会特別支援教育課が「特別支援教育マスター指標(管理職)」に対応させて一部修正

観 点		1回目	2回目
マネジメント力	学校経営力	0	0
	人材育成力	0	0
連携推進力	校内連携体制	0	0
	校外連携体制	0	0
子供理解力		0	0
合計		0	0



【振り返り】
(1回目)

(2回目)

【令和7年1月版】

特別支援教育マスター指標：

管理職として特別支援教育に関して身に付けるべき資質能力を3つの観点に分けて示した。

- キャリアステージ別の指標
- ② 管理職（校長・副校長・教頭）

観点 キャリアステージ	副校長・教頭 キャリアの充実	校長 キャリアの完成
マネジメント力 (学校経営力、人材育成力)	学校経営計画の重点項目を具現化し、特別支援教育の視点を取り入れた校内研修を推進し、評価と改善に導く具体的な指導ができる。 障害による困難さについて、確かな理解力と豊富な経験を生かし、就学も含めた適切な指導ができる。 各種教育施策や制度を正しく理解し、学校経営において活用する。	学校経営計画の重点項目に特別支援教育の視点を明示し、特別支援教育力の向上を目指した実践的な校内研修や校内委員会を運営する。
連携推進力 (保護者、関係機関との連携を推進する行動力)	校内委員会の有機的な運営を推進し、できうる環境整備や合理的配慮を提案するとともに、相談窓口として保護者や関係機関との連携を一層推進する。	保護者や特別支援学校、福祉機関等とのつながりを密にした連携体制を構築し、校内外の支援体制強化の責務を果たす。
子供理解力 (観察やアセスメントに基づく実態把握)	多面的かつ適切な実態の把握と検査結果等の活用で、障害による困難さと教育的ニーズを把握し、支援の方向性等を助言できる。 個別の指導計画の作成状況を確認し、適宜妥当性を評価できる。	

- M E M O -

校内委員会パック



令和6年3月
香川県教育委員会事務局
特別支援教育課

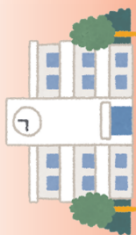
資料３：校内委員会パック①

校内委員会 概要図

全ての学級に特別な教育的支援が必要な児童生徒が在籍している可能性があることを前提に、校長のリーダーシップの下、特別支援教育コーディネーターを核として全教職員で組織的に対応する校内支援体制の確立を図るための、校内委員会の概要を示したものです。



特別支援教育に関する校内支援体制の充実を図るための 小・中・高等学校等における「校内委員会」の機能強化



【目的】

生活面や学習面において困難さのある児童生徒への指導や支援にあたり、障害の特性等についての全教職員の共通理解や全校での支援体制を整備し、いつでも、どこでも、誰でもが対応できる校内支援体制の構築を図る。保護者や専門機関との連携を図り、学校における支援体制を強化する。

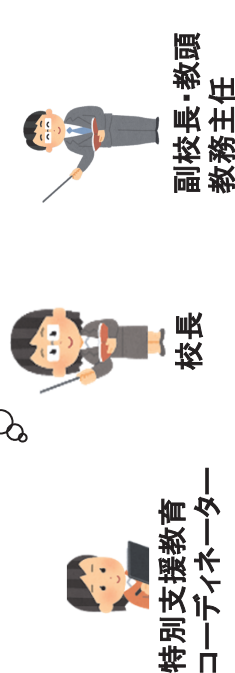
校内委員会の運営

☆校長のリーダーシップの下に、どの学級にも特別な支援を必要としている児童生徒がいることを前提とする。

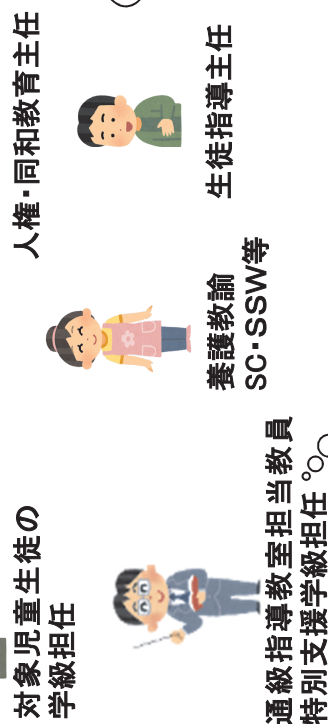
☆校長は、特別支援教育コーディネーターにふさわしい教師を適切に指名する。
☆校内委員会の内容を改めて整理し直し、機能させていく。



発達障害を含む障害のある児童生徒の実態把握や支援方策の検討



校内委員会 構成メンバー(例)



・自立活動等特別な教育課程の編成
・個別の指導計画の作成と活用

検討事例

☆学級担任等の気付きを積極的に吸い上げる。

☆幅広く学校全体で特別な教育的支援を必要としている児童生徒の把握及び状況の共有を図る。

★必要に応じて

- ・保護者
- ・特別支援学校のセンター的機能の活用
- ・外部の専門家との連携



・通常の学級での分かりやすい授業
・合理的配慮(ICT含む)
・特別支援教育支援員の配置等

資料３：校内委員会パック②

機能的な校内委員会運営シート

支援の具体的な手立て、本人へのアプローチ、役割分担等、校内委員会を機能させるポイントを運営シートとしてまとめました。校内委員会開催前に、特別支援教育コーディネーター等と目的や内容（主訴）を共通理解しておくことが有効です。

機能的な校内委員会運営シート

校内委員会は、学校の特別支援教育を推進していく上で欠かすことのできないものです。校長と特別支援教育コーディネーターは、学校全体としての取り組みにするため、校内委員会の運営についてしっかりとビジョンを持つことが必要です。



校内委員会を機能させるポイントがありますか？

支援が必要な児童生徒に「必要な支援が実施できている状態」を作ることができるのが校内委員会です。

○情報の交流だけで終わらせない

○個別の指導計画作成だけに終わらせない



◎支援の具体的手立て（小さなことでOK）を検討

◎「だれが」「いつ」「なにを」「どのように行うか」
「その評価をいつ行うか」を明確に

◎児童生徒本人が何に取り組むのか、本人へのアプローチをどうするのか、校内関係者はそれぞれ「何ができるのか」という役割分担の視点で参加



定例化することと、必要に応じ迅速に開催することがおすすめです。

開催後は、PDCA サイクルで評価や振り返りの場を設定することが必要です。

資料3：校内委員会パック③

みんなで支えたい児童生徒のための校内把握シート

通常の学級内でみんなで支えたい複数の児童生徒の実態を4名まで1枚のシートでチェックできます。担任の気づきを吸い上げ、校内委員会等で活用することにより、全教職員で組織的に対応する支援体制の構築につなげることができます。

みんなで支えたい児童生徒のための校内把握シート
～通常の学級：チェックリスト～

児童
生徒

年 組	記入者：	記入日： 年 月 日
※学級内でみんなで支えたい児童生徒の名前を書き、当てはまる項目にレを記入してください。		
A	B	
C	D	

	具 体 的 行 動	A	B	C	D
学 習 面	聞き漏らしが多い				
	何を話したいのか分からないことが多い				
	音読で勝手読みが多い				
	字形が崩れている				
	指定された罫線の中に字が書けない				
	簡単な計算ができない（現学年から2学年下の計算等）				
	活動の時間配分ができない				
	目と手、脚の協調運動が苦手				
行 動 面	忘れ物が多い。物をなくす				
	集中が続かない。気が散りやすい				
	じっと立って（座って）いられない				
	常に視線がきょろきょろしている				
	他人の話を遮って話し出すことがある。おしゃべり				
	順番を守れない				
	ささいなことですぐ泣く。怒る				
	他人を妨害したり、邪魔をしたりする				
対 人 関 係 面	目を合わせて対話をしない				
	友達関係をうまく築けない				
	人の気持ちを共感できない。理解できない				
	話し方に抑揚がない。表情が乏しい				
	配慮のない言動が多い				
こ だ わ り	強いこだわりがある。興味に偏りがある				
	反復的な独特な行動がある				
	動作がぎこちない				
	特定の習慣や順序にこだわる（勝ち負け、一番、100点等）				

☆校内委員会で支援の検討、共通理解等が必要な児童生徒名

--

【文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査について」（平成24年）参照】

【福島県特別支援教育センター研修資料（平成29年）を香川県教育委員会事務局特別支援教育課が一部改変】

資料３：校内委員会パック④

特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリスト

どの子にとっても「分かる」「できる」授業を工夫し、必要に応じて一人一人の教育的ニーズに応じた支援を工夫するために、３つの観点・１２の視点で自己の授業を再確認するためのチェックリストです。自己評価しやすいように、具体的な指導・支援の例を記載しています。

校内委員会での協議や個別の指導計画作成時に、具体的手立てを考える参考資料としても活用できます。

特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリスト

～みんなが目をは輝かせて参加し、「分かる」・「できる」授業をめざして～

担任
担当

評価の欄にあてはまる数字をご記入ください

1…できていない 2…あまりできていない 3…ほぼできている 4…できている

	視 点	内 容	指導・支援の例	評価
「学習環境」の整備	環境の調整	活動に取り組みやすくするための、物の配置や手がかりを工夫している。	・物の置き場所が分かる表示	
	刺激量の調整	学習の妨げとなる刺激を除いたり軽減したりするように工夫している。	・音や光などの刺激の軽減 ・不必要な掲示物の除去	
どの子にとっても「分かる」「できる」授業の工夫	「めあて」の明確化	子ども自身が、「考えたい」「してみたい」と思うような明確な学習の「めあて」をもてるように工夫している。	・課題意識の明確化 ・子どもの言葉による「めあて」の作成	
	学習の見通し	学習活動の流れや内容・方法・時間等の見通しがもてるように、また、いつでも確認できるように工夫している。	・「めあて」の板書 ・「本時の予定」の板書 ・既習事項の掲示	
	情報の伝達	指示・説明は、簡潔で明確にしている。また、言葉だけでなく視覚的にも提示している。机間指導をして理解できているか確認している。	・指示は一つずつ短く行う ・指示や手順を黒板に明記 ・絵や図等を使って説明	
	集中の持続	教材から子どもの意識が離れないように、集中しやすい多様な学習活動を工夫している。	・動作化やロールプレイの導入 ・体験、作業を伴った活動	
	情緒の安定	学び合ったり、助け合ったりする活動が工夫されていて、教師や友だちから認められる場面がある。	・協力する場面の設定 ・認め合う場面の設定 ・ノートや作品へのコメント	
	達成感、自尊感情	評価の内容、方法、基準等を工夫し、すべての子どもが達成感や満足感を味わい、自尊感情が高まるような配慮をしている。	・振り返る場面の設定 ・個々の伸びの評価	
一人一人の教育的ニーズに応じた支援	思考・表現活動への配慮	思考・表現の際の補助となる手がかりを工夫している。	・観点やポイントの提示 ・ヒントカードの使用	
	話すことへの配慮	ペア対話などの話しやすい環境を整え、話す機会を工夫している。	・少人数での話し合い ・メモを活用した発表 ・二番目以降に指名	
	読むこと、書くことへの配慮	読むことや書くことへの負担を軽減し、自信がもてるように工夫している。	・文字の拡大やルビふり ・書き出しやキーワードの提示 ・マスの大きさや行の幅の工夫	
	運動・感覚への配慮	運動面の困難さ、不器用さ、感覚の過敏・鈍感さに配慮している。	・書く量や練習回数の調節 ・道具の使い方の個別指導	

資料３：校内委員会パック⑤

校内委員会 進行マニュアル

校内委員会の進行例を台本としてまとめました。校内委員会の参加者が会の全体的な流れを把握することで、事前の準備が整い、スムーズな協議につながります。

また、特別支援教育コーディネーターに限らず誰でも司会が可能となるよう、司会のポイントを示しました。

後に掲載する個別の指導計画参考様式１－２、２－２と連動し、校内委員会での協議内容が反映できるようになっています。

**チーム学校特別支援教育カUP
校内委員会 進行マニュアル**

予定時間	段階	会の流れ ※司会のポイント	司会の言葉
(2分間)	流れの共通理解	☐ はじめの言葉 ※終了時刻の確認 ☐ 対象児の確認 ☐ 流れの確認	・本日の主訴（テーマ）は〇〇です。 ・〇年〇組〇〇さんの実態を把握し、〇〇さん自身の取組等、個人に関することと、環境整備について検討します。困っているのは〇〇さんです。肯定的、実践的な支援の方向性を探っていきましょう。 ・終了予定時刻は〇時〇〇分です。<u>（今から30分後終了）</u>
(5分間)	願（い）本・人情（指・報）導保提の護ね者らの	☐ 学級担任、前学級担任等関係職員からの情報提供 ※対象児の実態の確認 ※本人のなりたい自分像、家族の願いの共有	「個別の指導計画」（紙で配付、データを投影等視覚化して）をご覧ください。 ・担任の〇〇先生、〇〇さんの実態や長所と、なりたい自分像と取組み等を簡潔に紹介してください。（①の欄） ・家庭の状況やきょうだい関係と、これまでの保護者とのやり取りや検査結果、関係機関との連携について、報告をお願いします。 ・参加の先生方、質問等ありませんか。
(8分間)	目標設定	☐ 学校で取り組む目標の設定	・学習面、行動面、社会性など、短期目標を設定します。（②の欄） ・（担任）〇〇先生、いかがですか。 ・（参加している）〇〇先生、いかがですか。 ・まとめます。 ・実態と長所等を関連付け、学校生活での短期目標を〇〇、〇〇とします。
(8分間)	取組の検討	☐ 本人の取組・本人へのアプローチの検討 ※本人の取組と本人へのアプローチを考える。 ☐ 全体の環境整備の選定 ※環境を整える取組を考える	<u>（検討時は、付箋紙を活用して協議したり、ホワイトボードで全体の協議内容を残す等が有効）</u> ・では、本人の取組、本人へのアプローチで〇〇さんが取り組めることと、環境整備の視点から協議します。（③の欄） ・（参加している数人に）〇〇先生、いかがですか。 ・〇〇先生が言われた取組もよさそうですね。 ・それを〇〇の時間にも取り入れるよう、アプローチしましょう。 ・他に、どんな取組・アプローチが有効だと思いますか。 ・（参加している数人に）〇〇先生、いかがですか。 ・実践可能な環境の整備、私たちができる具体的手立てについてもご意見をお聞かせください。 ・（参加している数人に）〇〇先生、いかがですか。 ・〇〇先生が言われた環境の整備（具体的手立て）もよさそうですね。
(3分間)	取組の決定	☐ 役割分担	・役割分担の確認です。 ・〇〇は、〇〇先生を中心に行います。 ・〇〇先生は、〇〇を進めていきます。 ・チームの力で、できそうなことを一人1役取組みましょう。 ・家庭や外部機関との連携の必要があれば検討します。 ・連携して取り組むことはありますか。 （必要に応じて）家庭に〇〇を伝えましょう。関係機関に相談しましょう。
(1分間)	方向性の確認	☐ 次回の日程確認 ※支援を維持していくことの協調	・次回は、1か月後に行います。1か月の支援と、〇〇さんの変容を確認します。 ・支援を行い、評価をよろしくお願いします。
(3分間)	指導助言	☐ 指導者より指導助言	・〇〇先生、ご指導お願いします。 ・これで、〇〇さんの校内委員会を終わります。
(15分間)	全体会	☐ 校内委員会での決定事項を報告 ※具体的な支援策、役割分担について話す。 ※必要に応じて、部会外の先生や人材に協力要請をする。	・記録は、校務用パソコンの共有フォルダに保存をします。 ・校内委員会で話し合った〇〇さんについて、特別支援教育支援員との共有をお願いします。

【参考資料：福岡市教育センターケース会議マニュアルを香川県教育委員会事務局特別支援教育課が一部改変】

- M E M O -

資料 3：校内委員会パック⑥

個別の指導計画（通常の学級用）

校内委員会と連動する、個別の指導計画参考様式です。

様式 1－1、1－2、記入例 1－1、1－2 は、個別の指導計画作成と活用の手引き（香川県教育委員会：平成 29 年 3 月）や、香川県教育委員会特別支援教育課ホームページに掲載している通常の学級の児童生徒用「個別の指導計画」様式、ならびに、記入例です。

個別の指導計画参考様式 2、記入例 2 は、令和 5 年度の研究推進校で活用したものです。

個別の指導計画を新規に作成したり、様式を見直したりする場合の参考になります。

個 別 の 指 導 計 画

(令和 . . 作成) 担任名

氏 名	生年月日	年	月	日	歳	第	学年	組
① 現 在 の 実 態	子ども保護者・ 子の願い							
	学 習 面							
	生 活 ・ 行 動 面							
	社 会 性 ・ 情 緒 面							
重点的に取り組 む指導の観点								

今 年 度 の 目 標 (長期目標)		主な指導の場
学 習 面		
生 活 ・ 行 動 面		
社 会 性 ・ 対 人 関 係		

香川県教育委員会特別支援教育課ホームページに掲載している通常の学級の児童生徒用「個別の指導計画」

様式例

[参考様式1-2]

(1) 学 期 の 取 り 組 み				
② 指 導 目 標 (短期目標)	③ 具 体 的 手 立 て	指導の評価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面				

(2) 学 期 の 取 り 組 み				
② 指 導 目 標 (短期目標)	③ 具 体 的 手 立 て	指導の評価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面				

(3) 学 期 の 取 り 組 み				
② 指 導 目 標 (短期目標)	③ 具 体 的 手 立 て	指導の評価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性	
学 習 面 / 生 活 ・ 行 動 面 社 会 性 ・ 対 人 関 係 面				

個別の指導計画 [記入例1-1]

(令和 . . 作成) 担任名 ○ ○ ○ ○

氏 名	○ ○ ○ ○	生年月日	年 月 日 14歳	第 2学年 4組
① 現 在 の 実 態	子ども保護者の願い	・ 友だちと一緒に学校生活を楽しみたい。(本人) ・ 学年相応の学力を身に付けてほしい。(保護者)		
	学習面	・ 文章を読む時に、文字や行をとばしてしまうことがある。 ・ 書くことが苦手な時間がかかる。作文も苦手である。 ・ 計算は得意である。 ・ 文章題になると式が立てられず間違いが多い。 ・ 理科の実験や観察は関心を示す。		
	生活・行動面	・ 忘れ物が多い。 ・ 係活動に積極的に取り組むことができる。 ・ 予定変更を早めに伝えることで、落ち着いて活動に参加できるようになっている。		
	社会性・情緒面	・ 休み時間などに、ルールが守れずに友だちとトラブルになることがある。 ・ 冗談が通じない。 ・ 相手の気持ちを考えずに、遠慮なく言うことがある。		
	重点的に取り組む指導の観点	・ 文章を読んだり書いたりする力を身に付ける。 ・ ルールを守る、相手の気持ちを考えて行動するなど、友だちとのトラブルを減らす。 ・ 忘れ物を減らす。		

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面	・ 文章の文字や行をとばさずに読んだり、原稿用紙1枚程度の作文を書いたりすることができる。	・ 通常の学級 ・ 通級指導教室 ・ 放課後取り出し指導
生活・行動面	・ 自分で持ち物の準備することで、忘れ物を減らすことができる。	・ 学校生活全般
対人関係・社会性	・ 集団の中でルールを守って活動することができる。	・ 学校生活全般 ・ 通級指導教室

香川県教育委員会特別支援教育課ホームページに掲載している通常の学級の児童生徒用「個別の指導計画」
様式例

〔記入例1－2〕

(1) 学 期 の 取 り 組 み				
② 指 導 目 標 (短期目標)	③ 指 導 の 手 立 て	◎	評 価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性
学 習 面／生活・社会性・対人関係面 ・教科書等の文章を読む際に、行をとばさずに読む。 ・自分で持ち物の準備をする。 ・勝ち負けにこだわらず、ルールを守って遊ぶ。	・読みやすくするために、文字を24ポイントに拡大したプリントを使って読むようにする。(担任・教科担任・特別支援教育支援員)(合意形成) ・チェックリストを使用し、準備した物のチェック欄に保護者と一緒に印をつけるようにする。(担任・本人・保護者) ・友だちと事前にルールを話し合ってから遊ぶようにする。(担任・学級委員・本人)	◎	・文字を拡大することで行をとばさず読めるようになった。しかし、読めない漢字をとばしてしまうことがある。 ・自分で確認しながら準備するようになり、忘れものが減ってきている。 ・ルールは理解できているが、負けそうになると、勝手にルールを変えようとする。	・通級指導教室や放課後指導を活用し、漢字にルビをふったプリントで読む練習をする。定期考査でもルビを振ったプリントを使用する。 ・定着するまで、この方法を継続し、様子を見る。 ・話し合ったルールを掲示するなど視覚化をすることで、いつでも自分で確認できるようにする。
(2) 学 期 の 取 り 組 み				
② 指 導 目 標 (短期目標)	③ 指 導 の 手 立 て	<th>評 価 (◎ ○ △)</th> <th>来学期の指導の方向性</th>	評 価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性
学 習 面／生活・社会性・対人関係面 ・教科書等の文章を読む際に、漢字をとばさずに読む。 ・自分で持ち物の準備をする。 ・勝ち負けにこだわらず、ルールを守って遊ぶ。	・漢字にルビをふったプリントを用意して、読む練習をする。(特別支援教育支援員・本人)(合意形成) ・1学期に引き続きチェックリストを使用し、自分だけで準備した物をチェック欄に印をつけるようにする。(担任・本人) ・友だちと話し合ったルールを紙に書いて提示し、確認できるようにする。(担任)			
(3) 学 期 の 取 り 組 み				
② 指 導 目 標 (短期目標)	③ 指 導 の 手 立 て	<th>評 価 (◎ ○ △)</th> <th>来年度の指導の方向性</th>	評 価 (◎ ○ △)	来年度の指導の方向性
学 習 面／生活・社会性・対人関係面				

研究推進校で活用した

個別の指導計画

〇〇学校・通常の学級

〔参考様式2〕

〇年〇組

(男・女)

児童生徒氏名 (〇〇〇〇)

令和5年度

担任 (〇〇〇〇)

記載日：〇月〇日

① 実態 (長所も含む)		家庭の状況
. . . .		
検査結果等	関係機関 (医療・福祉)・相談機関 (巡回相談の情報も含む) との連携	
. . . .		

② 短期目標 (学習面・行動面・社会性)	③ 必要と思われる支援ツールや方法 (担当者) (有効であった支援を中心に無効であった支援も記入する)	評価 (〇月〇日)
○ ○ ○ ○	本人の取組・本人へのアプローチ ・ 環境の整備 ○ ○ ○ ○ ○	. . .

3年1組

(男・**女**)

児童生徒氏名 (〇〇〇〇)

令和5年度

担任 (〇〇〇〇)

初記載日：5月1日

① 実態 (長所も含む)		家庭の状況
- 忘れ物が多いため、授業準備が整わず活動にスムーズに取りかかれなことが多くある。 - 集中が続かず、離席がある。立ち歩き、友達に話しかけることがある。(国・算) - 板書を全てノートに書き写すことができない。 ◎自分の意見を積極的に発言できる。◎算数が得意。自信をもって計算問題を解く。		祖母・父・母・姉 (5年3組) ペットの犬の世話を進んでいる。
検査結果等 ・ 関係機関 (医療・福祉)・相談機関 (巡回相談の情報も含む) との連携		
- 医療機関は未受診 6月27日、巡回相談 (県) 実施		

② 短期目標 (学習面・行動面・社会性)	③ 必要と思われる支援ツールや方法 (担当者) (有効であった支援を中心に無効であった支援も記入する)	評価 (〇月〇日)
○授業中の離席を減らす。 ○自分の持ち物を管理する。	本人の取組・本人へのアプローチ ・ 環境の整備 ○授業中のルールを紙に書いて机上に貼って確認する (本人) ○授業中のルールが守れた時は即時評価 (担任、専科指導・司書) ○自分で確認できるように大切な内容や手順を短い言葉で板書 (担任、専科指導) ●得意な算数の時間は、グループ活動の司会役を任せたが、主張が激しくなりトラブル発生。解き方の協議より、答えの正解のみにこだわる (担任・特別支援教育支援員) ○準備した物をチェックリストに保護者と一緒に印を付ける (本人・保護者) ●持ち物チェックリストを作成するが、マンネリ化傾向である (担任) ○連絡帳に添付し、忘れ物がなかった日は花丸 (担任・管理職)	- 本児と一緒に授業中のルールを話し合い、少しの努力で達成可能な項目を段階的に取り上げることで、自信が高まり、離席回数が減ってきている。(6月30日) - 算数の時間は、得意の計算力を生かして解答しているが、グループでの主張が強くなってしまう。(7月20日) - 保護者と一緒に持ち物をチェックすることで忘れ物は減ってきている。チェックリストでの実践と評価の在り方の検討が必要。(9月21日)

資料３：校内委員会バック⑦

校内委員会 報告書

校内委員会での協議事項を校内全体で共有するために、特別支援教育コーディネーター等が報告書として活用します。校務用パソコンの共有フォルダの保存により、支援ツールや方法、環境の整備等、校内全体での実践につなぐことができます。

【校内委員会報告書】

話し合いのルール

組織力を生かし、多角的に子どもを見て、解決策を見い出していこう。

- 1 取り上げたい行動（事実）を記録しておく。（主訴につながる）
- 2 担任や担当の取組、質問等に対して、批判的否定的な発言は避ける。
- 3 「困っているのは子どもである」ことや「具体的な支援策を共有する」ことを確認。
- 4 個別の指導計画等に活用していく。

校内委員会 ○月○○日（曜日） 16:00～16:30

参加者（○○担任、校長、教頭、○○、○○、○○）

☆第○学年○○児の実態（長所も含む） ・ ②家庭の状況

☆検査結果等

☆関係機関（医療・福祉）・相談機関（巡回相談の情報も含む）との連携

☆短期目標（学習面・行動面・社会性）

※必要と思われる支援ツールや方法

☆本人の取組・本人へのアプローチ

☆環境の整備（役割分担）

【校内委員会報告書】

話し合いのルール

組織力を生かし、多角的に子どもを見て、解決策を見い出していこう。

- 1 取り上げたい行動（事実）を記録しておく。（主訴につながる）
- 2 担任や担当の取組、質問等に対して、批判的否定的な発言は避ける。
- 3 「困っているのは子どもである」ことや「具体的な支援策を共有する」ことを確認。
- 4 個別の指導計画等に活用していく。

校内委員会 ○月○日（曜日） 16:00～16:30

参加者（3年1組担任、校長、教頭、教務主任、特 Co. 各学年主任、養護教諭
生徒指導主事、人権同和教育主任）

☆第○学年○○児の実態（長所も含む） ・ ②家庭の状況

- ・ 授業中、集中が続かず離席あり。立ち歩き、友達に話しかける。
- ・ 算数が得意。自信をもって計算問題を解く。
- ・ 姉にあこがれている。ペットの犬の世話を進んで行っている。

☆検査結果等

- ・ 未受診

☆関係機関（医療・福祉）・相談機関（巡回相談の情報も含む）との連携

- ・ 県の巡回相談（6月27日予定）

☆短期目標（学習面・行動面・社会性）

- ・ 授業中の離席を減らす
- ・ 自分の持ち物を管理する

※必要と思われる支援ツールや方法

☆本人の取組・本人へのアプローチ

- ・ 授業中のルールを記入、机上に貼る
- ・ 持ち物チェックリストの活用

☆環境の整備（役割分担）

- ・ 大切な内容や手順を短い言葉で板書（担任・専科指導）
- ・ 持ち物チェックリストを連絡帳に添付し、忘れ物がなかった日は花丸（担任・管理職）

資料３：校内委員会パック⑧

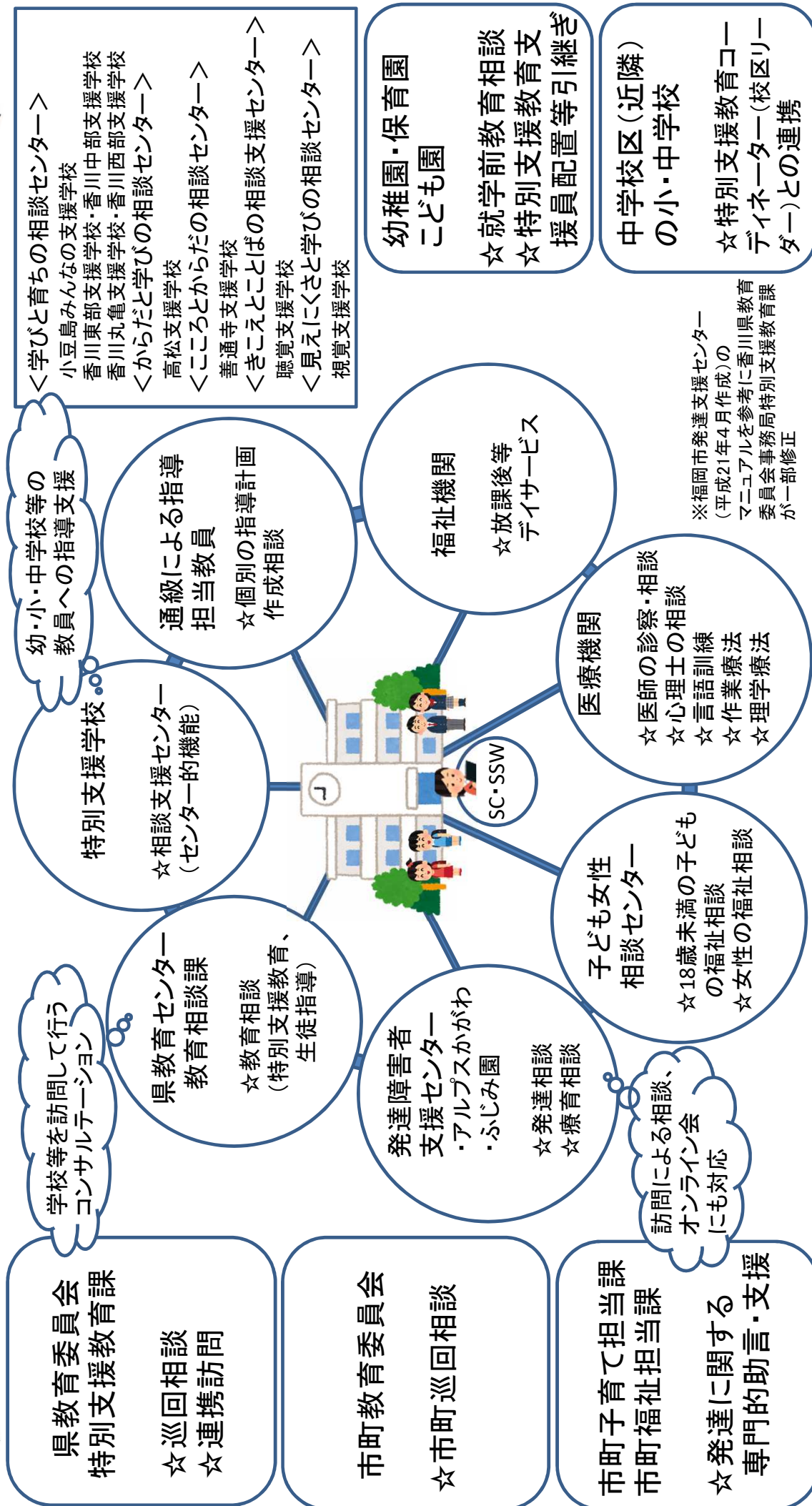
つなげよう！つながろう！特別支援教育ネットワークマップ

県内の関係機関や専門機関をまとめたネットワークマップです。書き込みができる自校の相談版の特別支援教育ネットワークマップも用意しています。

自校の相談版を事前に作成しておくことで、校内委員会の協議等で関係機関、相談機関との連携が必要となった場合に即時に活用ができます。ケース会議につなぐことも考えられます。



つなげよう！つながろう！ 特別支援教育ネットワークマップ





自校の相談版

つなげよう！つながろう！特別支援教育ネットワークマップ（ ）市町立（ ）学校



県教育委員会

特別支援教育課

担当（ ）

☎(087-832-3757)

☆巡回相談

☆連携訪問

要項に沿って
5月初旬まで
に申請(県教委
HP掲載)

担当（ ）

☎(087-813-0945)

県教育センター

教育相談課

（ ）支援学校

校長（ ）

特Co.（ ）

☎（ ）

(センター的機能)
電話による受付

()市町立

()学校

校長（ ）

特Co.（ ）

☎（ ）

市町教育委員会

担当（ ）

☎（ ）

市町子育て担当課

市町福祉担当課

担当（ ）

☎（ ）

申込フォームを
ダウンロードし、
Fax (087-867-0420)

☎(087-862-8861)

子ども女性
相談センター

☎(087-862-8861)

西部子ども相談
センター

☎(0877-24-3173)

発達障害者支援 センター

「アルプスかがわ」
「ふじみ園」共通

所長（ ）

担当（ ）

☎(087-866-6001)

福祉機関

☆相談支援事業所

☆放課後等デイ
サービス

(SSWにつなぐ)

SC・SSW

医療機関

()病院

()科

医師()

心理士()

☎()

＜学びと育ちの相談センター＞
小豆島みんなの支援学校
香川東部支援学校・香川中部支援学校
香川丸亀支援学校・香川西部支援学校
＜からだと学びの相談センター＞
高松支援学校
＜ところとからだの相談センター＞
善通寺支援学校
＜きこえとことばの相談支援センター＞
聴覚支援学校
＜見えにくさと学びの相談センター＞
視覚支援学校

幼稚園・保育園 こども園

☆就学前教育相談
☆特別支援教育支
援員配置等引継ぎ

中学校区の小・中、
地域の高等学校等

☆特別支援教育
コーディネーターと
の連携

※福岡市発達支援センター
(平成21年4月作成)の
マニュアルを参考に香川県教育
委員会事務局特別支援教育課
が一部修正

